

学 位 論 文 審 査 の 要 旨

論文提出者	向井景祐
論文審査委員	(主 査) 朝日大学歯学部教授 渋谷俊昭 (副 査) 朝日大学歯学部教授 永原國央 (副 査) 朝日大学歯学部教授 玉置幸道
論文題目	
インプラント体埋入部に近接する骨欠損への炭酸含有アパタイト-bFGF 複合体の応用	
<p><u>論文審査の要旨</u></p> <p>本論文では多孔性の炭酸含有アパタイト(CA)顆粒を作製し、これをスキャフォールドとして塩基性線維芽細胞増殖因子(bFGF)を添加した複合体を用いたインプラント体周囲骨欠損に対する骨増生の様相を観察している。さらにこの結果をもとに、CA-bFGF 複合体によるインプラント体周囲の骨増生の臨床的有用性について検討している。</p> <p>填入後8週ではCA群、CA+FGF群にCA顆粒の残存が認められた。BMDはコントロール群、FGF群に対してCA群、CA+FGF群で高い値を示した。新生骨量はCA+FGF群が最も高かった。新生骨高さはコントロール群、FGF群に対してCA群、CA+FGF群で高い値を示した。CA残存率はCA群に対してCA+FGF群で低い値を示した。以上の結果から、CA-bFGF複合体はインプラント体周囲骨欠損部の骨増生に有用であることが示唆された。</p> <p>審査委員からはインプラント体周囲に作製した骨欠損の形態について、μ-CTによる硬組織再生量の検討についての討議ならびに質疑がなされ、これに対して適切な回答がなされた。また、図表および語句の表記など改善の指摘があり修正がなされた。</p> <p>審査委員は、本論文がCAをbFGFの足場材料とするインプラント体周囲の骨増生の臨床応用の可能性を示したと高く評価し、学位授与に値するものと判断した。</p>	